

保証書

持込修理

機種	ステンレス製手動噴霧器 SS-10/SS-15	※お買い上げ日	
保証期間	お買い上げ日より1年間	※販売店	〒 住所
お客様	※お名前		氏名
	※ご住所	〒 電話 ()	

※に記入のない場合は無効になりますので必ずご確認ください。


この保証書は本書に明記した期間、条件のもとにおいて、下記記載内容で無料修理をお約束するものです。保証期間経過後の修理等について、ご不明の場合は、販売店にお問い合わせください。

株式会社 **工進**

京都府長岡京市神足上八ノ坪12

保証期間内に取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書きにしたがった正常なご使用状態で故障した場合には、本記載内容に基づき無料修理いたします。お買い上げ日から保証期間内に故障した場合は、商品と本書をお持ちいただきお買い上げ販売店に修理をご依頼ください。

- 保証期間内でも次のような場合は有料修理となります。
 - 〈イ〉 使用上の誤り、または改造や不当な修理による故障または損傷。
 - 〈ロ〉 お買い上げ後の落下、運送等による故障または損傷。
 - 〈ハ〉 火災・地震・水害・落雷・その他天災地変、公害等による故障または損傷。
 - 〈ニ〉 本書のご提示がない場合。
 - 〈ホ〉 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
 - 〈ヘ〉 消耗品は有料修理となります。(Oリング・平パッキン・各種パッキン)
 - 〈ト〉 腐食によって故障した場合。
 - 〈チ〉 定格荷重を超えて使用した際の破損。
- 本書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
- この商品は持込修理に限らせていただきます。出張修理はいたしません。
- 本書は日本国内についてのみ有効です。

- 製品についての取扱い方法・商品選定は…
 - カタログ等、資料請求は…
 - 購入後1年以内の製品で故障かな?と思ったら…
- お問い合わせ相談窓口 キョウトのコーシン
 **0120-075-540**
 お電話頂きます際は、型式・お買上年月日・故障状況をお知らせください。
 平日:9:00~12:00 13:00~17:00 土曜:9:00~12:00
 (年末年始・夏期休暇等・日祝日を除く)
 ※フリーダイヤルの受付時間に変更がある場合は、弊社ホームページにてご案内させていただきます。
 ● 製品の修理・パーツについては、お買い上げの販売店にご相談ください。
 ● 製品の価格・納期は、代理店・販売店にお問い合わせください。

KOSHIN 株式会社 **工進**

<http://www.koshin-ltd.co.jp>

〒617-8511 京都府長岡京市神足上八ノ坪12

改良のため、予告なく仕様を変更する場合がございます。

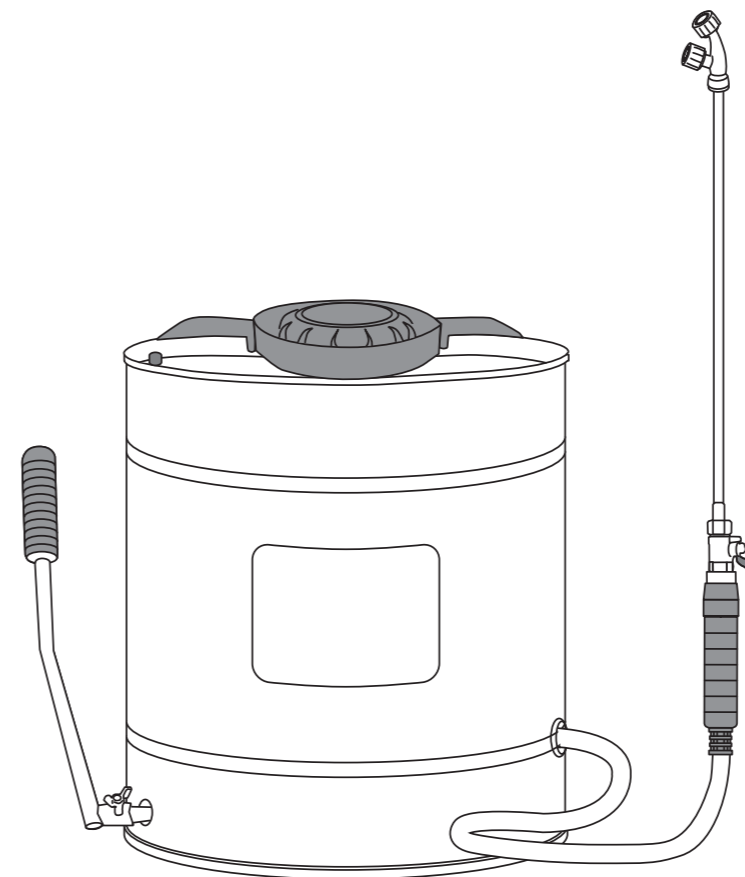
15-12 042014501

ステンレス製 手動噴霧器

(背負式)

SS-10/SS-15

取扱説明書(保証書付)



SS-10/15

- このたびは、当社製品ステンレス製手動噴霧器(背負式)をお買い上げ頂き誠に有難うございます。
- この取扱説明書には、正しく安全にご使用いただくための注意事項が記載されています。ご使用になる前に必ず本書をお読みになり、使用方法をご理解ください。(誤った使用方法は、事故・ケガの原因となります。)
- 取扱説明書は、何時でも見られるように大切に保管ください。

目次

ドリフト(飛散)対策のご案内	2
安全上の注意	4
各部の名称と仕様	7
ご使用になる前に	8
使用方法	13
使用後の注意	16
保守・点検	17
主なアフターパーツについて	18
パーツリスト確認方法	18
故障と処置	19
アフターサービスについて	20
保証書	

※保証書を大切に保管ください

株式会社 **工進**

15-12 042014501

もっと安全・安心に

(飛散)

ドリフトの少ない農薬散布を!

食品衛生法が改正され、農薬残留基準にポジティブリスト制度が導入されました。今まで残留農薬基準値が決められていなかった農薬に、0.01ppmという一律の厳しい基準が設けられ、この定められた基準を超えて農薬が残留する食品は、出荷停止・販売禁止・回収等の対応が求められるようになりました。

農薬の適正使用はもちろんのこと、散布する薬剤が周りの圃場にドリフト(飛散)しないよう、これまで以上に気をつける必要があるとともに、地域一体となった取り組みが大切となります。

ポジティブリスト制度とは

食品衛生法に基づく残留基準値が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の販売等を原則として禁止する制度です。一定量とは「人の健康を損なう恐れのない量として厚生労働大臣が定める量」として、原則0.01ppmとなっています。(いわゆる一律基準)
平成18年5月29日より施行

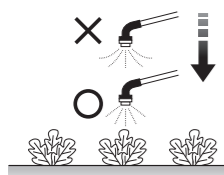
※詳しくは厚生労働省のHP等をご参照ください。

散布しようとする作物以外に農薬がドリフト(飛散)しないよう散布時には細心の注意を払いましょう。



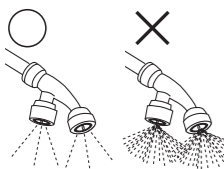
風の弱い時に風向きに注意して散布しましょう。

農薬ドリフトの最大要因は風です。風のない日や風の弱い時に散布しましょう。散布中は常に風の状況を把握して注意することが必要です。



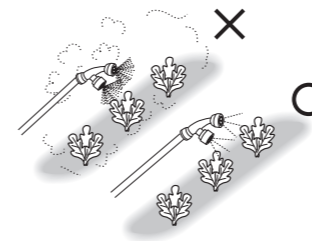
方向や位置に注意して散布しましょう。

出来るだけ作物の近くから作物だけに散布するよう心掛けます。特に圃場の端部では外側から内側に向けて散布する等、特に注意が必要です。



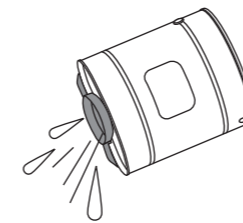
適正なノズル・圧力で散布しましょう。

細かい散布粒子のノズルを使用するほど、また散布圧力を高めるほどドリフトしやすくなります。必要以上の圧力で散布しないよう注意が必要です。又、ドリフトの少ないノズルに取り替えることも効果的です。



適正な量を散布しましょう。

必要最小限の量と区域で散布を行い、無駄な散布をしないように心掛けます。散布量が多くなるとドリフトする割合も大きくなります。



薬剤タンクやホースは洗い残しが無いよう十分に洗浄を行い、洗浄水は適切に処分しましょう。

薬剤タンクやホースに使用した農薬が残っていると、次の散布時に作物に薬害が生じたり、収穫物に農薬が残留してしまう等、思わぬ事態に繋がる恐れがあります。

地域一体となった取り組みが大切です。



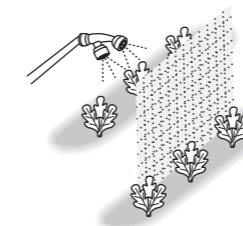
周りの作物にも登録のある農薬を使用しましょう。

より多くの作物に適用があり、収穫近くまで使える様な農薬を選定する事で、飛散した場合のリスクを低減する事が出来ます。



決められた農薬の使用方法を守りましょう。

使用前には農薬の使用方法を確認し、散布出来る作物や使用量、濃度、使用時期、総使用回数を必ず守って使いましょう。また、圃場ごとに使用した農薬や作業内容を必ず記録しておきましょう。



境界区域では農薬散布を控え、周りの作物をネットやシートなどで遮断したり一時的に覆いましょう。

周りの圃場で収穫直前の作物がある場合は、散布日や収穫日を変更する等の調整をしましょう。

次の場合は特に注意が必要です。

- ◇圃場同士の距離が近い時
- ◇隣の食物作物の収穫が近づいてきた時
- ◇飛散が起こりやすい散布方法・条件の時

農薬散布することを周りの生産者に伝え、日頃からコミュニケーションをとるなど、地域の農業従事者同士の連絡を密にしておくことが重要です。

※ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上正しくお使いください。

ここに示した注意事項は製品を正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危険や損害を未然に防止するためのものです。また、注意事項は次のように区分しています。


■表示内容を見逃して、誤った使い方をした時に生じる危険や損害の程度を次の表示で「危険」「警告」「注意」に区分し、説明しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

危険 人が死亡または、重傷などを負う可能性が高いと想定される内容です。



警告 人が死亡または、重傷などを負う可能性が想定される内容です。



注意 人が損傷を負う可能性及び物的損傷の発生が想定される内容です。




 ……この記号はしてはいけない「禁止」の内容です。



 ……この記号は必ず守っていただく「実行」の内容です。



危険



  使用する薬剤については、薬剤の取扱説明書を十分にお読みの上、正しく使用してください。

  安全の為、作業中は保護マスク、保護メガネ、保護衣、作業帽、不浸透性の手袋、作業靴を着用してください。



   薬剤は有害です。幼児や子供が触れないように保管してください。また、保管方法については薬剤の取扱説明書に従ってください。



  薬剤に被爆した時(誤って飲用した、皮膚に接触した等)は、薬剤の取扱説明書に従い、適切な処置を行うか、医師の診断を受けてください。



  タンク内に薬液を入れたまま保管しないでください。使用後は、タンク内の薬液を抜いてからよく洗浄し、子供の手の届かない場所であって、かつ直射日光の当たらない場所に保管してください。本機の故障の原因になるばかりでなく、事故を引き起こす恐れがあります。



  薬液を変える時は、必ず前の液を完全に抜いてから、新しい液を入れてください。薬剤が混ざると、化学変化をおこす恐れがあり危険です。



警告



  改造・分解は絶対にしないでください。故障や異常動作を引き起こし、けがの原因となります。


  防除、除草用の農園芸用薬剤の散布・散水用途以外には使用しないでください。

  薬剤は誤使用・誤飲の危険がありますので、絶対に別の容器に移し替えないでください。薬剤の空容器は、散布液調合時には必ずよく洗い、薬剤メーカーの指示に従って、その都度正しく処分してください。

  薬剤が人体、家畜にかからない様に、また、川、池、沼などを汚染しない様に風向き周囲の状況を十分に確認の上、使用してください。



  作業する前に、必要な点検を必ず行ってください。ホースの接続部はしっかり締まっているか、ホースに破れや穴はないか、薬液タンクのキャップはしっかり締まっているか、等の点検を忘れないでください。点検をおこたると、薬液が漏れて思わぬ事故につながります。

  薬剤を使用する時は本機の取扱説明書に記載されている主要薬剤適合一覧表を確認の上、使用してください。強酸性・強アルカリ性の液体、ベンジン・ガソリン等の可燃性の液体、溶剤等は絶対に使用しないでください。爆発する恐れがあります。ゴキブリ・ハエ・蚊等に用いる殺虫剤・防疫用薬品、下水・便所等に用いる消毒剤、畜産用薬品は絶対に使用しないでください。故障の原因となります。

  幼児・子供が触れないよう、安全な場所で使用してください。ケガの原因となります。

  少しでも体調が悪くなった時はすぐに医師の診断を受けてください。

注意

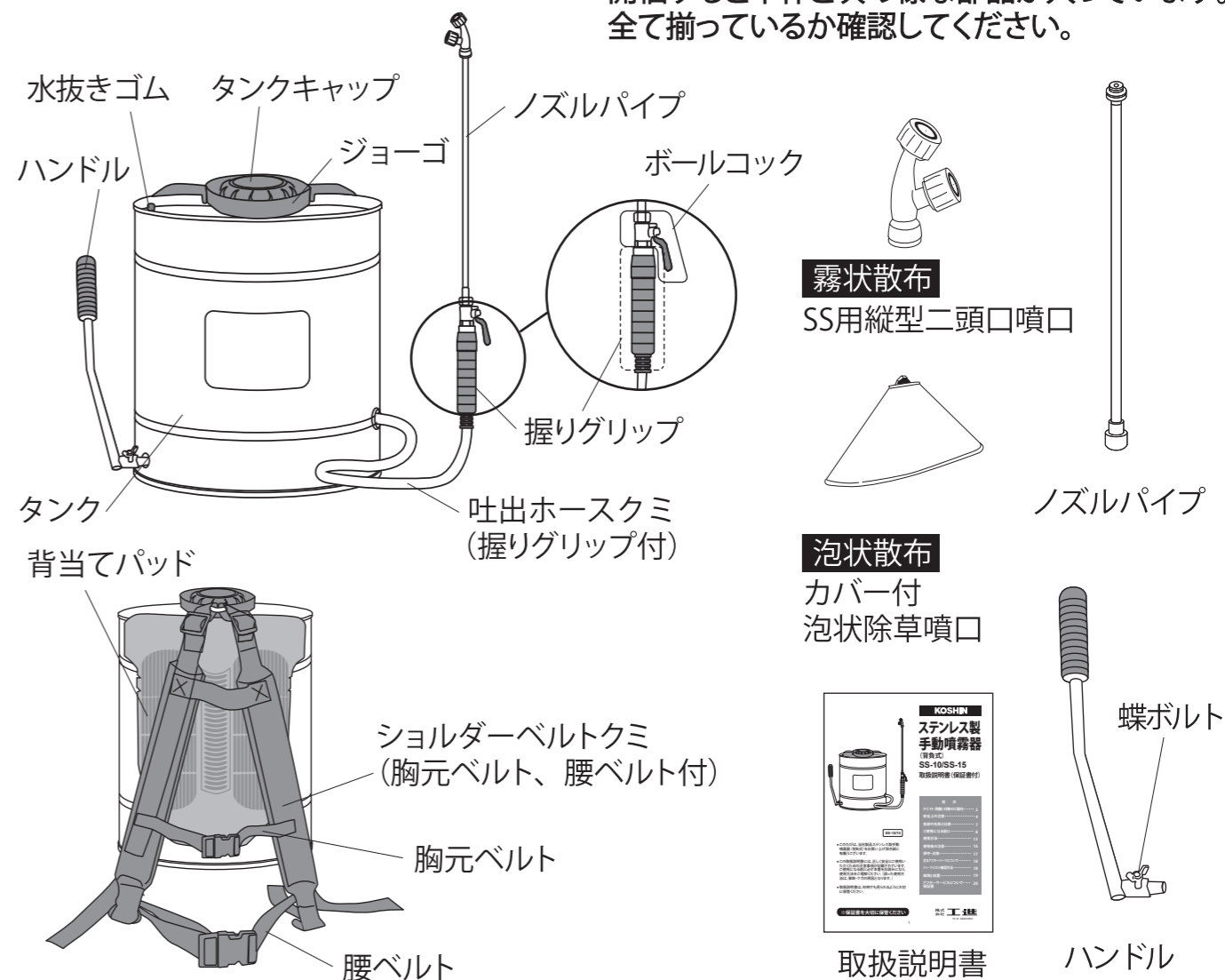
  作業終了後は器具や着衣類を全てよく洗い、作業後も入浴するか、手、足、顔等を石けんでよく洗い、うがいをしてください。

！ 注意

必ず守る		噴霧状態が悪化した場合など噴口部を清掃する場合は、顔面に薬液がかかる恐れがありますので、必ず圧力を抜いてから、噴口部を取り外して清掃してください。
禁止		飲酒時、過労ぎみ、病気や妊娠している時は、作業をしないでください。 このような時に作業を行うと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。作業する時は、必ず心身とも健康な状態で行ってください。
必ず守る		動かなくなったり、異常がある場合は事故防止のため、直ちにご使用を中断して、お買い求めの販売店に点検・修理をご依頼ください。 そのまま使用されますと液漏れする恐れがあります。
禁止		安全性を損なう恐れがありますので、40℃以上の温水、発熱性の薬品は使用しないでください。
必ず守る		人に本機を貸す時は、取り扱い方法をよく説明し、使用前にこの取扱説明書をよく読むように指導してください。 借りた人が誤った本機の使い方をして、思わぬけがなどをすることがあります。
禁止		炎天下で長時間作業しないでください。作業は、風の強くない、朝夕の涼しい時間を選んでください。
必ず守る		調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、薬品の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。故障の原因になります。
必ず守る		薬品は必ず調合してからタンクに入れてください。
禁止		ジョーゴ部を持って、持ち運ばないでください。 液漏れや破損の原因となります。

各部の名称と仕様

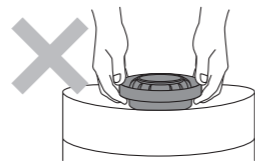
開梱すると本体と次の様な部品が入っています。全て揃っているか確認してください。



機種名	SS-10	SS-15
名称	ステンレス噴霧器	
薬液タンク容量	10リットル	15リットル
寸法(幅×奥行×高さ)	380×205×427mm	380×205×495mm
正味重量	4.6kg	4.9kg
最高圧力	0.35MPa (3.5kgf/cm ²)	
ポンプ形式	ダイヤフラムポンプ	
カバー付泡状除草噴口	常用圧力 0.2MPa (2kgf/cm ²)時 0.5L/分	
SS用縦型二頭口噴口	常用圧力 0.2MPa (2kgf/cm ²)時 0.8L/分	
接続ネジ	噴口接続部、ノズルパイプ接続部: G1/4	
標準付属品	ノズルパイプ (47cm) カバー付泡状除草噴口 SS用縦型二頭口噴口 ハンドル	

1 確認事項

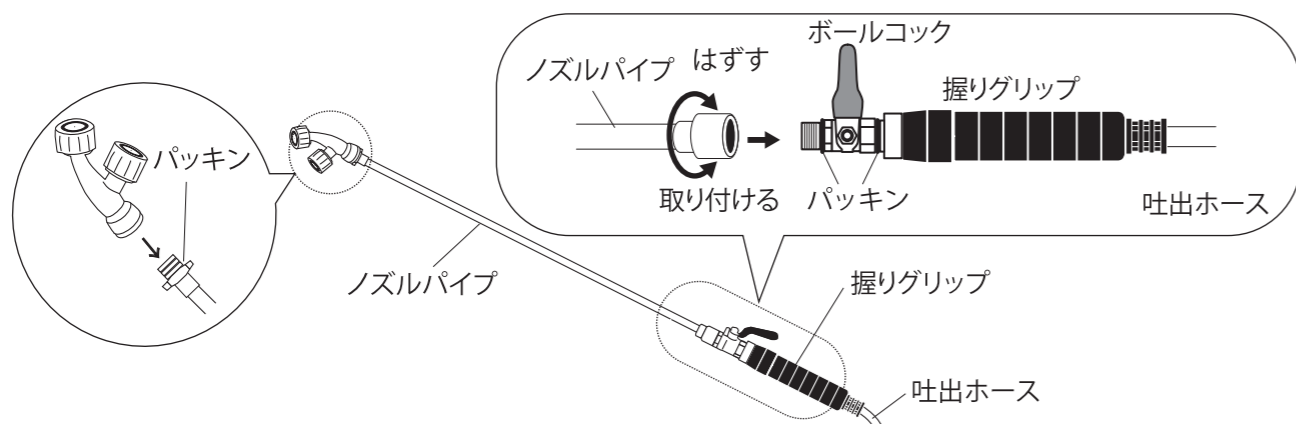
製品を箱から取り出す時はジョーゴ部分を持たず、ベルトなどを持ってください。破損の原因となります。



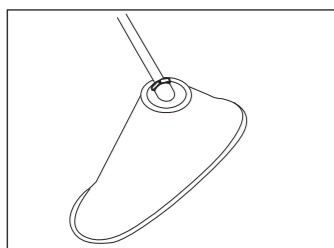
同梱されている部品が全て揃っているか確認してください。(P.7 各部の名称と仕様(標準付属品)参照)

2 組み立て

- 握りグリップのボールコックにノズルパイプを取り付けます。各接続部にパッキンが付いていることを確認してください。



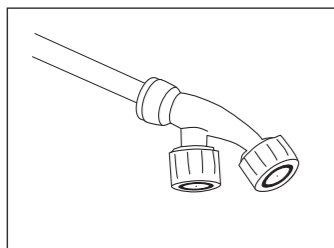
- ノズルパイプの先端に、2種類の噴口から必要なものを選んで取付けます。



カバー付泡状除草噴口 ※霧状にはなりません

泡状散布

- 少量・通常散布用
- 葉・茎から吸収させ、植物全体を枯らす 茎葉吸収移行型の除草剤に使用します。
- 風の影響を受けにくく、薬剤の飛散を防止できます。



SS用縦型二頭口噴口

霧状散布

- 通常噴霧散布用
- 薬剤を噴霧状態で均一に散布できます。



注意

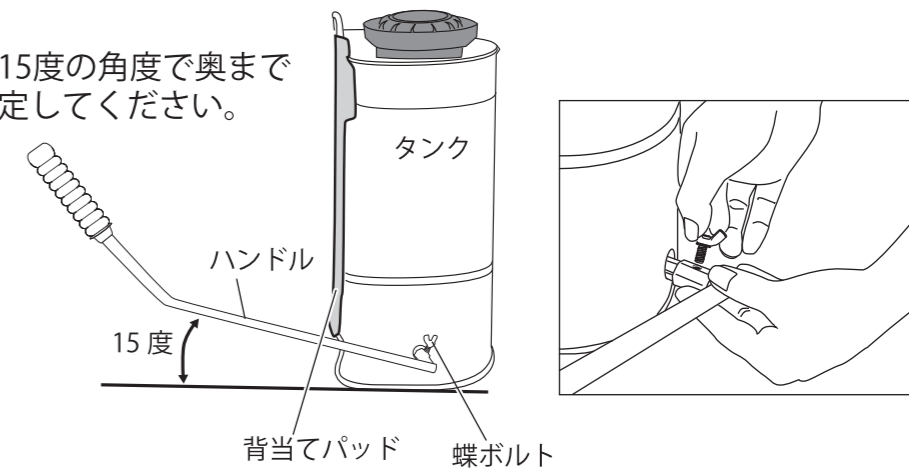
各接続部にはパッキンが付いています。必ずパッキンがあることを確認してください。また、液漏れがない様にしっかりと締め付けてください。



注意

吐出ホースに亀裂、破損がないことを確認してください。

- ハンドルを取付けます。ハンドルを図のように約15度の角度で奥まではめこみ、蝶ボルトで固定してください。



3 薬液について

- 薬剤を希釈する

散布計画を立て、薬剤は余らないように作ってください。少量の薬液を作る時は、下記の希釈倍率早見表をご参照ください。

〈希釈倍率早見表〉

	希 釈 倍 率 (ccまたはg)							
	50倍	100倍	200倍	300倍	400倍	500倍	1000倍	2000倍
水								
2L	40cc	20cc	10cc	7cc	5cc	4cc	2cc	1cc
4L	80cc	40cc	20cc	13cc	10cc	8cc	4cc	2cc
6L	120cc	60cc	30cc	20cc	15cc	12cc	6cc	3cc
8L	160cc	80cc	40cc	27cc	20cc	16cc	8cc	4cc
10L	200cc	100cc	50cc	33cc	25cc	20cc	10cc	5cc
12L	240cc	120cc	60cc	40cc	30cc	24cc	12cc	6cc
15L	300cc	150cc	75cc	50cc	37.5cc	30cc	15cc	7.5cc



注意

薬剤の取扱説明書を十分にお読みの上、記載されている倍率に従い、薬剤を正しく希釈してください。

2. 主要薬品適合一覧表

乳剤(薬剤を水で薄めて使用)		水和剤(粉末の薬を水で溶かして使用)	
●殺虫剤	スミチオン乳剤 マラソン乳剤 ディプテレックス (DEP)乳剤 マシン油乳剤 ダイアジノン乳剤 DMTP乳剤 PAP乳剤	●殺虫剤	オルトラン水和剤 ロプラール水和剤 モレスタン水和剤 DMTP 水和剤
●殺菌剤	ポリオキシン乳剤 マイシン乳剤 サプロール乳剤 石灰硫黄合剤	●殺菌剤	ベンレート水和剤 ダイセン水和剤 ダコニール(TPN)水和剤
●除草剤	クサノンA乳剤 ラウンドアップ バスタ	●除草剤	クサノンS水和剤 シマジン水和剤 2,4-D

ゴーゴーサン・トレファノサイドをご使用の場合

⚠ 警告

ゴーゴーサン・トレファノサイド等一部の薬剤は使用方法を誤りますと、故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。正しい使用方法を必ず守ってください。

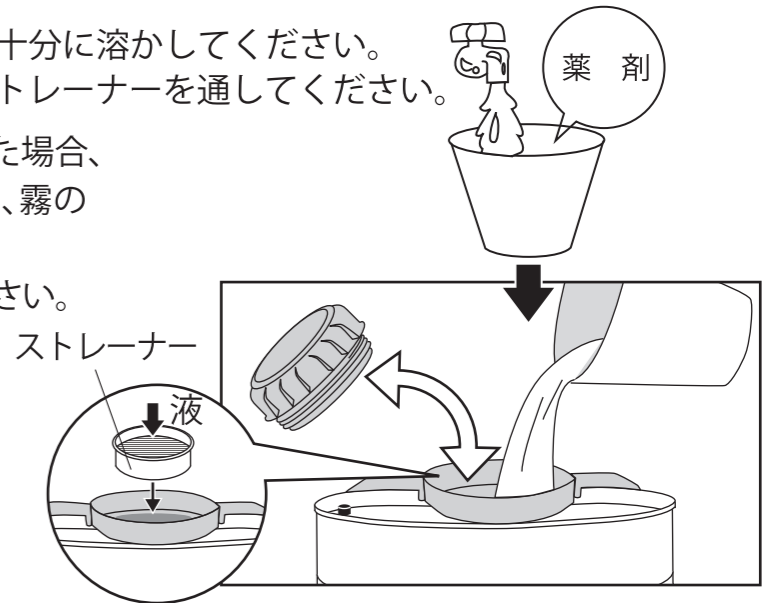
- ① 薬剤は薬剤メーカー指定の希釈倍率の範囲内で必ずご使用ください。
- ② 使用後は速やかに水洗いをしてください。
(薬液をタンクの中に入れてそのまま放置しないでください。)
水洗いはタンクの中に清水を十分に入れ、噴霧をさせ、ホース・ポンプも十分水を通して、完全に洗浄するようにしてください。
水洗いは2~3回繰り返して実施してください。

⚠ 注意

一部の薬剤は正しい使用方法を守った場合でもタンク等を変色させたり、変形させることがあります。機能上は問題ありません。
(万が一、少しでも異常を感じられた場合は、速やかに使用を中止しお買い上げの販売店にご相談ください。)

3. バケツ等の容器に水、薬剤を入れ、十分に溶かしてください。
タンクに入れる時は必ず付属のストレーナーを通してください。

石灰硫黄合剤及び水和剤を使用した場合、
噴口やストレーナーに薬剤がつまり、霧の
状態が悪くなることがあります。
薬剤はよく溶かしてからご使用ください。



⚠ 注意

薬剤は有害ですから、取り扱いについては必ず薬剤メーカーの指導に従って充分注意を払ってください。体に付着したときはよく洗い流してください。

⚠ 注意

水和剤、石灰硫黄合剤をご使用の際はバケツ等の容器でよく溶かしてご使用ください。
また、ご使用中に薬液が沈殿しないように良く攪拌してください。

ご使用になる前に

4. 作業上の注意

●作業は防除用の服装で!

安全のため、農薬の付着や吸入を防ぐため、保護マスク、保護衣、頭から肩まで覆う事の出来る防水頭巾、ゴム手袋、ゴム長靴、ゴム前掛けを用意し、危険のない服装で作業してください。

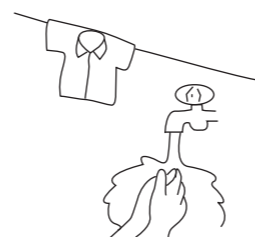


●体調のよい時だけ作業を!

少しでも体調が悪くなった時は、すぐに医師の診断を受けてください。

●周囲の安全を確認!

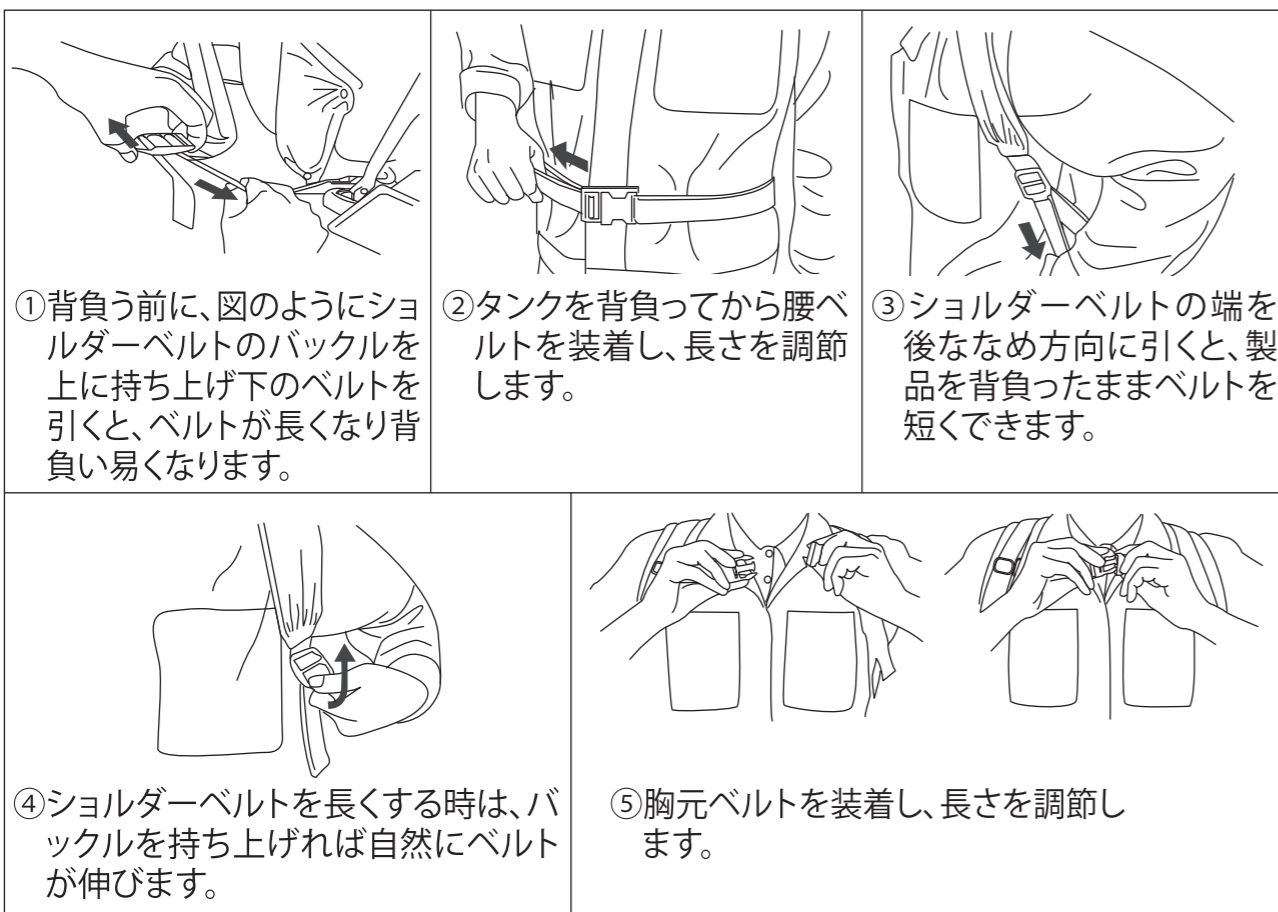
風向きや周囲の安全を確認して作業をしてください。川・池・沼等汚染しないよう、また、人・家畜に害のないようにし、作業者の体にもぜったい薬がかからぬようにしてください。



●すべて、よく洗う!

作業が終わりましたら器具や着衣類をすべてよく洗い、作業者もただちに入浴するか、または手・足・顔等を石けんでよく洗い、うがいをしてください。

4 ショルダーベルトの調節



⚠ 注意 急激な操作は避けてください。急にベルトが長くなり危険です。

使用方法

1 薬液を入れる

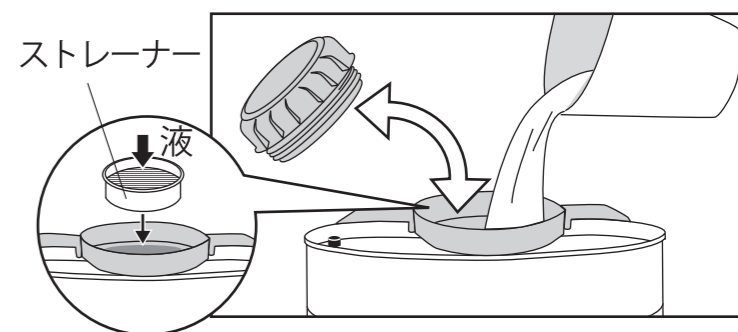
1. ボールコックが「閉」になっていることを確認します。



⚠ 注意 ボールコックを「開」の状態のままにして、タンクに薬液を入れますと流れ出て来てしまいます。

2. タンクキャップをゆるめて、はずします。

3. バケツ等の容器に水、薬剤を入れ、十分に溶かしてください。
 - 薬剤タンクに目一杯入れますと、傾いた時にこぼれることがありますのでご注意ください。
 - タンクに入れる時は必ず付属のストレーナーを通してください。
 - 薬剤の取扱いについて、詳しくは11ページをご確認ください。



4. 薬液を入れ終われば、タンクキャップをしっかりと締めてください。

② 加圧する

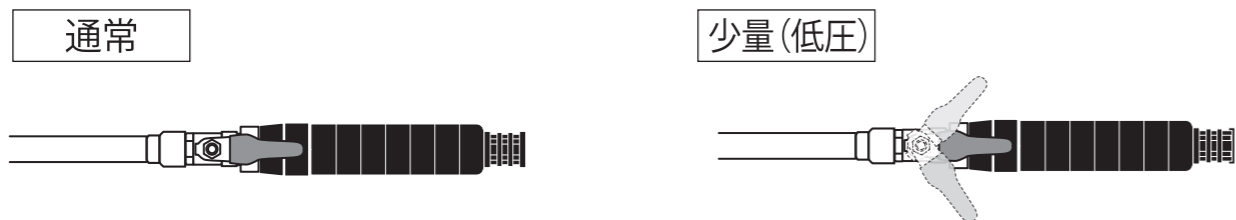
1. ハンドルを倒した状態で背負ってください。
2. ボールコックを開の状態にして、ハンドルを10回程度上下させます。噴口の先端から薬液が出ることを確認してください。(空気を抜く為です。)
3. ボールコックを閉の状態にして、ハンドルを10回程度上下して加圧してください。
4. ボールコックを開の状態にすると散布ができます。
5. 数秒すると噴霧が弱くなってきますので、ゆっくりとハンドルを動かして加圧しながら作業を続けてください。
● 毎分20～30回ハンドル操作を続けると常用圧力約0.2MPa (2kgf/cm²) で噴霧されます。



⚠ 注意	コックを閉じた状態で無理に加圧しないでください。 薬剤が漏れ出すおそれがあります。
⚠ 注意	ハンドルが動かせる角度は約45°です。 ハンドルは最下点より下側に無理に動かさないでください。 故障・破損の原因となります。
⚠ 注意	加圧した状態では長時間放置しないでください。

③ 噴霧させる

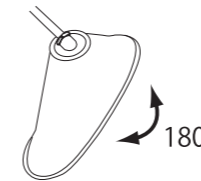
ボールコックの操作で噴霧量の調節ができます。



ボールコックのレバーを斜めの状態にすると少量(低圧)の噴霧ができます。

④ 噴口の調節

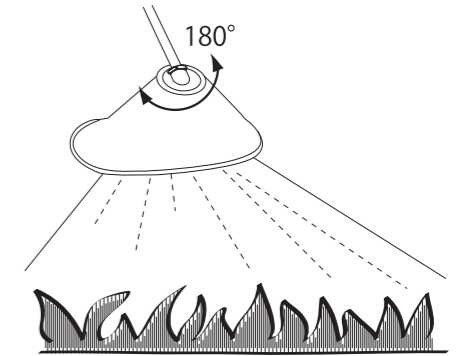
カバー付泡状除草噴口 ※縦型二頭口噴口は調整できません。



噴口が回転するので、角度を調整出来ます。
左右180°の範囲で調整してください。

⑤ 散布の仕方

○除草噴口を回し噴霧面を回転出来ます。



ポイント

雨の降りそうな日を避けて散布します。
薬剤を植物に長時間付着させることで除草効果が上がります。

⚠ 注意	噴霧中は噴口を回転させないでください。
⚠ 注意	噴口の調整はネジになっていますので、あまり緩めすぎると、液漏れまたは脱落しますので注意してください。

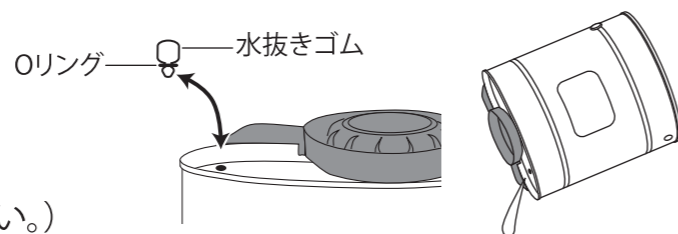
使用後の注意

1. 残った薬液は草木にかけるか土中に捨ててください。

⚠ 注意 川や池などには絶対に捨てないでください。

2. タンク内部を清水できれいにすすいで、再度タンク内に数リットルの清水を入れて噴霧させ、噴口～ポンプ内部に残った薬液を洗い出してください。完全に薬液が出終わるまで噴霧させてください。

ジョーゴ部から全ての水を出ることができないため、水抜きゴムを外してタンク内の残水を全て出してください。(水抜きゴムは引っぱれば外れます。取り付け時はそのまま押し込んでください。)ただし、構造上内部に少し液体が残るようになっています。



⚠ 注意 冬季はポンプ内に残った水が凍結し、破損する恐れがあるので、洗浄後は水がなくなるまで、ハンドル操作し、噴霧してください。

3. 噴口～ホース内の残液及びタンク内の残液を完全に排出させてください。

⚠ 注意 加圧された状態で接続部を取り外すと薬液が噴出する恐れがあります。接続部を外す前に周囲の状況を確認し、圧力を抜いてください。

⚠ 注意 余った薬液及び機械の洗浄水は、河川、水源地、下水等に流入しないように、薬害のないように自分の圃場内で処理してください。

⚠ 注意 前の薬液が本機内に残っていると薬害を起こす危険性があります。

⚠ 注意 使用薬液を変える時は、前の液を完全に抜き取ってから新しい液を入れてください。薬液が混ざると化学変化を起こす恐れがあり、危険です。

⚠ 注意 使用後は十分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず、風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

⚠ 注意 タンク内に薬液を入れたまま保管しないでください。本機の故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

4. 保管
本機洗浄後は乾燥した布で水気を拭き取って乾燥させ、屋内の直射日光の当たらない場所で保管してください。

⚠ 注意 子供の手の届かない場所に保管してください。

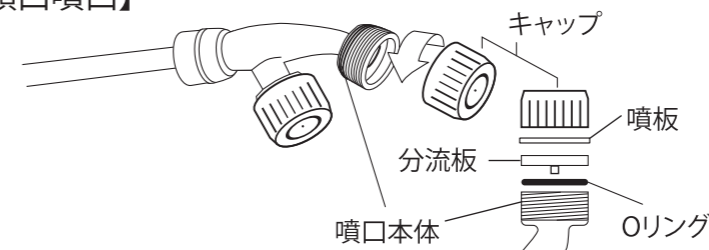
⚠ 注意 使用後は、残った薬液を排出し、十分に水洗いしてください。

保守・点検

① 噴口の洗浄

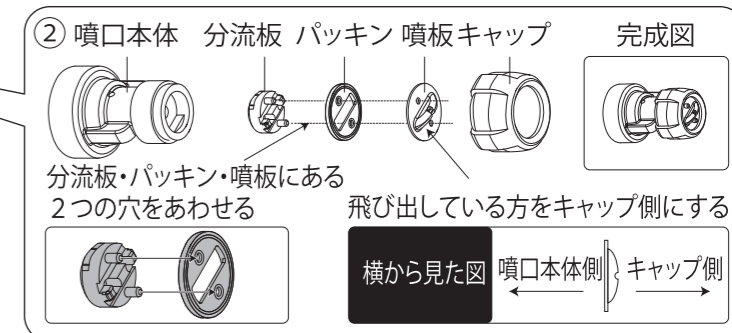
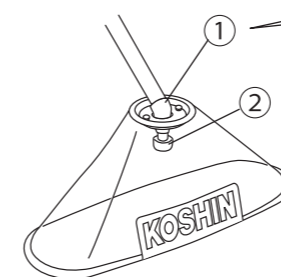
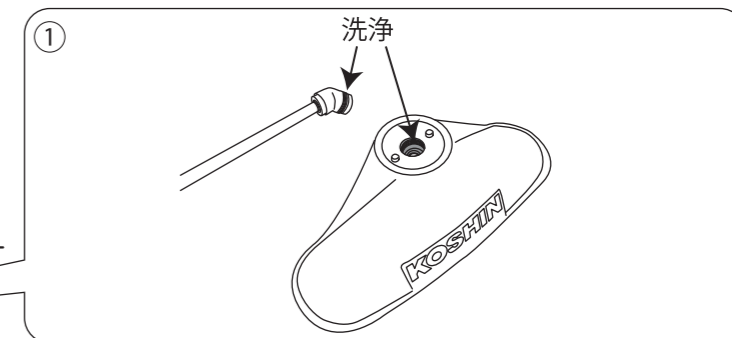
噴口を図のように外し、水洗ってください。

【縦型二頭口噴口】



【カバー付泡除草噴口クミ】

①及び②の2カ所を洗浄してください。組み立てる時は、順番と向きに注意して組み立ててください。順番・向きが違とうまく噴霧できません。



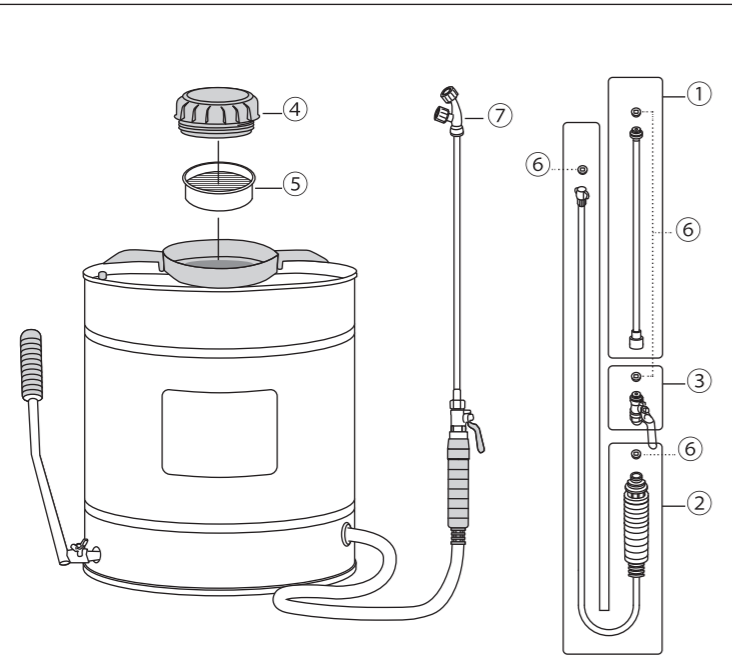
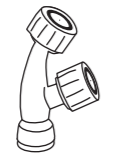

故障の原因になりますので、必ずお守りください。

⚠ 注意 使用後は、タンク内に薬液を入れたままにしないでください。残った薬液は排出し、十分に洗い流してください。

各部品の単品販売はございませんので、無くさないように注意してください。

主なアフターパーツについて

パーツはお買い上げの販売店を通じご注文頂けます。
 部品番号、部品名をご確認の上、販売店にご依頼ください。
 又、下記に記載のない部品も弊社ホームページよりパーツ表、価格をごらんいただけます。
 (下記「パーツリスト確認方法」参照)

部 品 名	部 品 番 号
	①ノズルパイプクミ 0428031
	②吐出ホースクミ (握りグリップ付) 0428029
	③ボールコッククミ 0428030
	④タンクキャップ 0420146
	⑤ストレーナー 0420147
	⑥SSパッキンフルセット (10L・15L用) PA-336 JAN:4971770-200012
	⑦SS用 縦型二頭口噴口 0420148
	⑧カバー付 泡状除草噴口クミ PA-105 JAN:4971770-101869

部品のご注文は販売店へご依頼ください。

故障と処置

症状	考えられる原因	処 置
噴霧が少ない 噴霧しない	加圧不足	ハンドル操作を増やす
	噴口、ノズルパイプ、吐出ホース等のつまり ポンプ部の破損または摩耗	分解・清掃する (噴口の清掃→17ページ) 修理
霧状にならない	縦型二頭口噴口のつまり	噴口の清掃→17ページ
	カバー付き泡状除草噴口を使用している	縦型二頭口噴口を使用する
ハンドルが重い ポンプ下部より液漏れ	噴口、ノズルパイプ、吐出ホース等のつまり	分解・清掃する (噴口の清掃→17ページ)
	ダイヤフラムの破損	修理
噴口～ホース よりの液漏れ	締め付け不足	増し締めする
	パッキンの破損、膨潤 亀裂または破れ	パッキンを交換する ホースを交換する
液が止まらない	ボールコックのゴミつまり	清掃する
	ボールコックの破損	ボールコックを交換する
加圧されない	ダイヤフラムの破損	修理
	Oリング・吸入・吐出弁の膨潤・破損	修理
	ポンプ内の空気が抜けていない	ボールコックを「開」にして10回程度ハンドルを動かす、空気を抜く

⚠ 注意

ご自分で分解・修理は絶対にしないでください。
 修理は販売店へご依頼ください。

パーツリスト確認方法

工進製品は全てホームページ上で価格が閲覧できるようになっています。

<http://www.koshin-ltd.co.jp>